



わかな峠から新山を望む

# 世羅高 同窓会会報

発行  
編集委員会  
世羅郡世羅町本郷870番地



## 第12号発刊によせて



同窓会長 小島 敏文  
(昭44高卒)

同窓会報第12号発刊にあたりご挨拶の申し上げます。

同窓会会員並びに地域の皆様方には、本会の運営に格別のご理解ご支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、最近の政治・経済、社会状況はどれを見ても、先の見えない、言葉に言い尽くせぬ閉塞感が漂っています。確信の持てない時代にこれからの社会を担う高校生が、将来に対してどのような夢や希望を抱いているのか心配でなりません。

今年一番の明るいニュースは、宇宙航空研究開発機構の小惑星探査機「はやぶさ」が七年間に及ぶ大航海の後、無事地球へ帰還したことであります。数々のトラブルを克服して、往復60億キロの旅を成し遂げ、しかも小惑星「イトカ

わ」の微粒子約1500個がカプセル内から見つかった。宇宙のこれだけ離れた天体から物質を持ち帰ったのは人類初であり、まさに日本科学技術陣の技術力の高さを世界に示した偉業であります。

もう一つの明るいニュースは、鈴木章氏・根岸英一氏二人の日本人科学者がノーベル化学賞を受賞されたことであります。二種類の有機化合物の革新的な合成法を開発し医薬品製造やエレクトロニクス分野での様々な新しい物質の合成を可能にした技術が評価されました。こうしたニュースを聞く 때마다日本は捨てたものではないと自信がわいてきます。

化学という我が世羅高校にもすばらしい先輩方がおられます。その一人が昭和28年卒の中村敏雄先輩であります。数十年前将来の自動車社会を見越し渡米され、自動車のつや出し塗料(ポリマー)を開発されたと聞いています。現在アメリカに住まわれていますが、世羅高校からも立派な化学者が誕生されています。

夢がない時代と思いがちですが夢はある、大いなる夢を持って、勉学に取り組んでくれることを願っております。

JAXAの川口淳一郎教授は「先輩と喜びを分かち合いたい」と、「はやぶさ」の偉業の背後には、脈々と受け継がれてきた地道な努力があることを話されました。地道な努力と言えば、今年も陸

上競技部がみごと県予選大会で、男女揃って優勝を果たし、来る12月26日に開催される全国高校駅伝へ駒を進める事になりました。世羅高校における駅伝も脈々と受け継がれてきた地道な努力の成果であり、これからの良き伝統を積み重ねて参りたいと考えています。

一昨年同窓会会報発行十年をひと区切りとして、休刊するか刊行を続けるかのご提案をいたしました。その後同窓会役員および編集委員の皆様には、引き続き御手数を煩わせますが宜しくお願ひ申し上げます。

会員の皆様および地域の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

## 台湾同学会を思う



校長 戸野 法史

今年もまた陸上部が男女揃って全国大会への出場権を獲得することができました。世羅高校のための師走ではという印象を、赴任以来三度目の全国駅伝競走大会を目前に強く感じています。

懸命な応援を力に、都大路を全

力で疾走する選手の姿は、美しく躍動感に満ち溢れており、世羅高同窓会関係者にとって誇らしくまた喜ばしいものです。本校の教育活動のなかでも陸上部の活動に対し、同窓会、東京校友会、近畿同窓会、台湾同窓会等から様々なご支援をいただいております、心より御礼申し上げます。

私は今、日本という国家が経済的にも政治的にもかつてのダイナミズムを失い、内向きになつていくことに危機感を持っています。この閉塞感を教育者の立場から何とか打破できたらと考えており、ケニア・台湾・ニューヨークと交流の輪を拡大してきたのも、生徒の視野を少しでも世界に広げたいとの願いからです。

外国の地理や気候風土・食文化の違いを肌で感じ、生徒同士がクラブ活動等を共に体験することによって、予断や偏見に妨げられた偏狭な視野を持つことなく成長していく教育的価値は大きいと考えています。

さて、台湾修学旅行での交流活動を続けている、姉妹校の屏東縣立大同高級中学は中学部を併設する生徒数二千人の高校ですが、この交流を開始するにあたって、台湾同窓会陳恒盛会長を中心に姉妹校の選定に大変なご尽力とご支援をいただきました。

しかし一方で、台湾同窓会には新たに若い会員が入ることは考え

られず、年毎に年齢を重ねていくという実態も抱えています。言うまでもなく、同窓会の在り様は同窓会会員による自治よって決定されることになるわけですが、学校としても、日本とのつながりを維持する方法を検討する時期に差しかかったと考えています。

私事で恐縮ですが、私の父は当時の台湾縣に設けられていた台南師範学校を卒業しました。退職後は台南師範同窓会の会計にも携わっていました。数年前に会員の総意で同窓会を解散しました。父の願いがどこにあつたのか今となっては確かめようもないのですが、無理だとわかつていてもやはり同窓会を存続させたかったのではないかと考えています。

台湾同窓会に集う同窓の皆さんにとつても世羅高校に対する母校愛はそれと同じではないかと私は思えるのです。

私は近いうちに、小島同窓会長と一緒に大同高級中学を訪問し、洪玉燕校長にお会いします。その際、台湾同窓会役員の方々ともお会いしたいと考えていますが、懇談が濃密で母校愛で結ばれた時間となるよう願っています。

恩師寄稿

中学時代の思い出



林 忠明

私が世羅高校の前身、旧制の世羅中学校に入学したのは、昭和17年4月(1942)でした。

大田庄の中心で、木造2階建ての校舎2棟と講堂、運動場、西側に武道館と、教育環境の整備された学校でした。校歌にあるように、新山と大田川に囲まれ、自然そのままの中学校でした。

こうした環境の中で、充分学習に励むことができるはずでしたが、時勢はそれを許しませんでした。

昭和16年12月8日開戦の「大東亜戦争」(大東亜共栄圏確立の戦い)というこで、こう言われましが、国民生活を大きく支配するようになりました。

このことは、世羅中学校に及びました。入学当初は、2階端の教室で、平常の学習ができましたが、次第に国家統制にもとづく軍国主義が強化されるようになりました。私の記憶にもとづくままとりあげてみます。

勤労奉仕と呼ばれて、出征した兵士の留守家族の農作業援助、田植え・草刈り・稲刈りなどに、何回か行きました。今高野山の上の城山に、防空監視所を作るため、石材や土砂の運搬をさせられた時のきつかったことは、今でも思い出します。

学習活動も次第に変化し、教練と呼ばれた軍事訓練が強化されました。世羅中学校が、銃剣道(小銃の先に剣をつけて行う)で、管内の試合で、成績が上位になったことで、強く指導されたことも記憶に残るものです。

昭和19年に入り、学徒勤労動員が実施され、世羅中学校では4、5年生が、呉海軍工廠に、私たち3年生は、向島日立造船所に動員されました。日立造船所で、約1年間、軍事の物資運搬船の修理作業に当たりました。鉄板工、溶接工、大工などに分かれ、それぞれで作業に当たりました。

昭和20年にかけて、米軍による各都市の空襲が激しくなりましたが、尾道は空襲を受けたことはありませんでした。が空襲警報のたびに避難しました。そのとき、動員学生は、工場周辺の防空壕でなしに、裏山に避難させられたのです。何故ですかと聞いたら、貴重な戦力なのでという答えでした。今考えてみると、人間性のかげりもない答えでしたが、当時としては、これが当たり前の答えだった

感性が光るアートな写真  
残しておきたい思い出の写真

ホームページで多くのお友だちの笑顔に出逢えます。ぜひ  
広島県高校駅伝、中国高校駅伝、速報写真掲載中!!

アート写真光房 **阿部写真館** 世羅町本郷  
TEL:0847-22-0213  
http://www.cameraman-abe.com/  
Eメール: info@cameraman-abe.com

TOCHU GROUP スズキ専門店  
**スズキオートSHOP**  
TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

トヨタ車のことなら 指定民間車検場 スズキサービス指定工場  
トヨタサービス指定工場 ボディーフレーム修正工場  
**アラタニオート(株)**  
TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

のです。

昭和20年8月、敗戦から終戦となり、世羅中学校に復帰しました。戦後の混乱が始まりました。世羅郡は比較的平穏で、4年の2学期から、授業が開始されました。

以上、戦時中4年間にあつたことを述べてきました。この中で私の言いたいことは、こうした状況に疑問も不審も持たず、言われるままに一生懸命努力してきたことは、何故か、国家権力による統制が極まるとうなるのでしょうか。今、日中問題(尖閣諸島)で、何か考えさせられています。

(世羅町別迫在住)

(先生は、本校に昭和27年4月から昭和53年3月まで社会科教諭として勤務され、文芸部・歴史研・卓球部などのクラブ顧問として、また、視聴覚教育の充実に努められました。)

### 「じよなく愛する

### 世羅高校

笹岡 邦彦

「世羅高校の出身ですか」と私はよくきかれます。世羅や世羅高のことが話題になったとき、つい熱く語るためかと思えます。私の38年間に及んだ教職生活の諸分野での活動の原点であり、その後も含めた人生への影響度を思うとき、私にとって世羅高校は母校以上の存在だと断言できます。今

でも私は、旧甲山町の妻の実家へ向かうときなど、世羅高校の校舎を見ただけで元気がもたえます。

昭和40年、駅伝の強い高校、たといふことしか予備知識のなかつた世羅高校で、私の教員生活は始まりました。そこで私は、純朴で意欲的な生徒たち、人情厚い地域の人たちに出会えました。さらに、多くの個性豊かな若い先生方と、私たちを見守り導いてくださった先輩の先生方に恵まれた11年間は、私の人生の宝です。

英語教師としての思い出のひとつは、昭和44年に県内の他の高校に先がけて完成した視聴覚教室で開催された県の研究大会で、テレビ等を駆使した授業を公開したことです。その後L教室ができると、私は、その教材作りに没頭して、最先端の英語教育をしていると自惚れていました。

一方では、高校生の感性を揺さ



ぶり、感動をもって英語を学ばせたいという意図で、新教材の発掘と教材化に努力を傾注していま

た。生徒の反応、感想文、英語による自己表現などに支えられて、当時はまだ荒削りでしたが、意欲的に取り組んでいました。世羅高を去って30有余年経ちましたが、当時の教え子の心に刻み込まれている教材もあるようです。

授業以外の思い出といえば、やはり高校駅伝の応援が一番です。全国の優勝候補の常連なのに応援部がなかつた世羅高にやつと応援団が結成され、私が初代顧問となりました。早速応援の専門家を招き、生徒たちといっしょに私も特訓を受けました。そして、全国高校駅伝では、毎年何台もの応援バスを率いて京都へ乗り込むのが私の任務となりました。多忙の年末でしたが、私は、意気に感じてその任に当たりました。生徒たちと「今年も勝てんかったのう」とぼ

やきながら帰路につく年も多かつたけど、在任中に二度勝利の美酒に酔うこともできました。「夢の8分台」の目撃者にもなれました。私の応援後遺症は今もつづいています。退職後は、毎年県高校駅伝の応援に三次の沿道に駆けつけています。また、陸上競技誌の購読をつづけ、毎年世羅高や駅伝に関する記事の投稿をしては密かに楽しんでいきます。最近、長年封印していた世羅高スタイルの応援を地域のイベント等で復活させて人気を博しています。この拙稿の写真は、先頃私の住む地域の素人

一座が人情時代劇の公演をした際に、前座に出演して元祖世羅高流応援で盛り上げたときのものです。現在私は、地域振興会の会長をしています。

最後に、  
「世羅高校の永久の発展を  
祈念して!! フレー!! フレー!!  
世羅高!! 押忍(オッス)!!」  
(安芸高田市向原町在住)

(先生は、本校に昭和40年4月から昭和51年3月まで英語科教諭として勤務され、視聴覚教材の開発、応援団の創設などに努められました。)

### 同窓生より

野鳥に学ぶ



岡田 清孝  
(昭31高卒)

現職をリタイアして十数年。今は豊かな自然の中で、僅かばかりの圃場で好きな農業を営みながら、第二の人生を楽しんでいます。自然は私達に豊かな恵みを与えてくれます。春には新緑の眩しい裏山でウグイスやホトトギスのさえずりを体感し、爽やかな朝

一般鋼材・ステンレス・アルミ各種加工

## 上野鉄工所

上野 悟(昭和52年卒)

〒722-1112  
広島県世羅郡世羅町本郷36-3  
TEL&FAX (0847)22-1322

出光興産株式会社販売店

## 芸備燃料株式会社

代表取締役 坂東辰男

本社  
〒722-1112 世羅郡世羅町本郷812-4 TEL0847-22-2121  
世羅バイパスSS  
〒722-1112 世羅郡世羅町本郷654-1 TEL0847-22-1151  
世羅配送センター  
〒722-1111 世羅郡世羅町寺町1871-1 TEL0847-22-1136

を迎えます。秋から冬にかけては、裏庭にジョウビタキやルリビタキ等の多くの可憐な冬鳥が訪れて愛嬌を振りまいてくれます。特に裏庭の木々はごく近くにあり、室内からは具(つぶさ)に鳥の表情や仕草を観察でき癒されます。

私は、大好きになった野鳥観察や愛くるしい野鳥写真を撮るようになってから十年近く経ちます。そのきつかけは些細なことです。ある職場に転動して一ヶ月後、職員室前の巣箱でシジュウカラ夫婦が、数々の試練を乗り越えながら共同し、厳しい自然の中で一生懸命子育てをする姿に感動したときからです。

籠の中の鳥を観るのとは全く別世界で、そこには自由に飛び回れる自然環境があるものの、絶えず天敵を警戒しながら自力で餌をとる、縄張りを守って子孫を残していくかねばならない容赦ない自然の掟がありました。こうした懸命に生きる生命の輝きは、私たちの子育てと重なって強い感銘を受けます。

昨今のマスコミ報道で、目を覆いたくなるような、社会を震撼させる悲しく暗いニュースを、数多く耳にするように思います。生命の尊厳が軽薄になってきているのでしょうか。親子の絆も家族の繋がりが細り、自己本位の私利私欲に走り、醜い心の内面が露呈しているように思われます。喜びや悲

しみを共有する連帯感や、心の痛みや苦しみを共感する優しさは、いったいどこに潜んだのでしょうか。

幼鳥への給餌でも、周囲を警戒しながら行動し、天敵から襲われないために夫婦で交替して見張りもしています。子を思う親の温もりや思いやりが伝わってきます。誰でもこうした野鳥の子育ての愛情に触れると、心が和み安らぎを覚えます。

幼鳥が巣立ちの時期に、誤って巣から転落した場面に遭遇すると、驚きと共に悲壮感を抱き、多くの人が困惑されることでしょう。巣立ちをした幼鳥は、一定期間親鳥から餌のとり方や天敵から身を守る秘策等を、自然の中で習得していきます。体得した知恵はこの苛酷な環境で、逞しく生き抜く力になることでしょう。私たち人間は手助けはできても、この崇高な生きる知恵を鳥に授けることは出来ません。幼鳥を自立させるために



は、身を挺した体験をしてこそ“生きる力”に繋がるものと考えます。

昆虫を餌とする鳥は害虫から木々を守り、木の実を餌とする鳥は種子を運んで森を育てます。森は鳥に住処と食物を与え、鳥は森を守る役割を分担して共存しています。私たちはこの自然から多くの恩恵を受け、健康的な生活を送ることができています。鳥たちは人間の大きな自然遺産です。

私はこの先、健康の続く限り野鳥を見守って生きたいと考えています。(三原市久井町坂井原在住)

### タイムカプセル



内海(加藤) 智子

(昭37高卒)

先日、私が退職前に勤務していた東小で「西暦二千年を期して十年たったら開けよう」と約束して封をしたカプセルを開封した。当時の児童や教職員のそれぞれ思い出の記録や十年後の自分にあてた手紙などが出てきた。私は、「この手紙を自分の手で開き読むことができるよう健康に

気をつけて生活したい」という前書きに続いて、十年後すなわち今年ふるさとの様子を書いた手紙を、現実に照らしながら読み進めた。その中で二項目について紹介してみた。

まず校区の実態である。農業が見直され花や野菜・米づくりが一層大規模化し、さらに大豆の加工場ができて、味噌や納豆などが加工販売され始めた。働く場ができてUターンやIターンによって人口減少に歯止めがかかった。

さらに、地区行事に地区民こそって参加できるように、家畜や畑の世話にロボットが導入され始めている。

次に、学校支援について、地域の関心が高まって、学校の計画と要請がパソコンに入力されれば、支援者が直接受けて、応援に駆け付ける仕組みが動いている。

また、小学校では施設の一部が日常的に、地域の高齢者に活用され、ふれあいサロンをしたり児童と一緒に歌ったり、調理をしたりして交流の場がもたれている。

まあ、当たらずとも遠からずかな。

十年一昔というけれど、年とってからの十年はかなり早く過ぎてしまった。

世羅高校を卒業してから、すでに五昔を過ぎた。子どもの頃は、来年こそはと一年先が目標だった。受験期はまずは入試合格、卒業し

手造りのおもてなし  
法事・慶弔料理・仕出し・宴会の予約承ります  
ファミリーレストラン

# タイニー

世羅郡世羅町西上原483-3  
TEL (0847) 22-0322 FAX (0847) 22-0405  
http://www.fr-tiny.co.jp/



いつでも電話でお気軽に  
総合建設業

## (有)坂上建設

☎ 23-0231 (代)  
世羅町宇津戸3453-1 FAX 23-0232  
夜間 23-0511

たらと夢を追い、就職してからは目の前ばかりに気を取られて夢中で、三十数年を過ごした。

そして、退職。今の私は、悠々自適とは程遠く、生活が八方に広がり過ぎて、予定表は真っ黒。おかげで、思いがけない方とも知り合いになれたし、思っていないかつた分野にも関わることになった。

その中の一つに「脱温暖化のまちづくり」への参加がある。私の今までの蓄えだけでは、到底乗りこえることはできない世界で、学びながらの一步一步である。時には脂汗を滲ませたり、冷や汗をかいたりしながら頑張っている。

思うに、私が、想定外の分野に踏み出す時には、いつも誰かの強烈なラブコールがあった。そのおかげで限られた一生に、目いっぱいの仕事が経験できるのだと感謝している。忙しいけれど充実感いっぱいである。

今私は、次のタイムカプセルに、自分宛の手紙を詰めておく準備をしている。今回は十年ではなく五年後に、自分の手で開いて読む日

(世羅町赤屋在住)

### 世羅高ありて、今の自分あり。

眞田悦次

(昭42高卒)

東京オリンピックが開催された年の春、私は世羅高へ入学しまし

た。昭和39年の春、古びた木造校舎の前に立ち、見上げた事が昨日のように思い出されます。

元来小柄で、ひ弱な体質であったため、小・中学校では、体育は苦手科目であった。走ればビリ、泳ぎは6年まで出来ませんでした。高校に入り、体作りが一番と、聞いたこともない「ハンドボール部」には入りました。

高校3年間、皆に迷惑かけながらも、クラブ活動を続けられたことは、私にはひとつの大きな自信になりました。

卒業後、平塚市にあった農林省園芸試験場に行きました。ある日曜日のバイトの帰り、試験場近くのグラウンドで某大手メーカーの運動会が行われていました。

アナウンスで、「1500m走を行います。飛び入り大歓迎！豪華賞品をそろえています！...」これを聞いたら、もう参加するしかない。「総務課におじがいます！」と嘘を言い、グラウンド5周走り抜いたら：なんとダントツ1位！

賞品をもらい、その夜の寮は鍋料理で寮友と放歌高吟したのは言うまでもありません。



その後、昭和45年に農業研修で渡米。ワシントン州の田舎にいた時、コミュニティカレッジで駅伝大会がありました。にわかチームを作り参加。日本航空が、ジャンボジェットのテスト飛行を行っていた空港の側道を日の丸を見ながら走り：これ又1位。改めて世羅高の陸上レベルの高さに誇りを持ちました。

校内マラソン10kmで20位、30位くらいの私が（陸上部は参加していない）この成績だから、陸上部の人は推して知るべし。

私は農業をしています。文頭に書いた木造校舎の前に15坪くらいのガラス温室がありました。入学した時、中にプリムラの鉢が数個あり、感動を覚えた記憶があります。将来こんな天候に左右されないガラス温室で農業が出来たらいいな！と夢を持ったものです。

39歳まで農協で働きましたが、40歳で心機一転、バラ栽培農家となりました。入学した時の夢を20数年後に実現できたことは幸福でした。

還暦も過ぎ、順風満帆と言えないが、農業も続けています。でも、まだまだ夢があります。

高校3年間で育まれた友人の輪。夢は実現できるという信念。農業科というマイナーな科を卒業した私ですが、高校生活に感謝しています。

(世羅町寺町在住)

### 大学を卒業して四〇年



釣井良明

(昭42高卒)

卒業以来転職をすることもなく今日に至っております。過ぎ去つてみれば「光陰矢のごとし」とはよく言つたものです。世羅高に通っている時、もっと勉強をしていれば：もっと違った勉強の仕方をしていればと思つてあります。

頭が良くなかつたんです。大学に入つてからは、勉学の意欲にめざめ、一週間の時間割には可能な限り空白のない状態をつくつていました。私は機械工学科卒業ですが、他の学科の科目、例えば原子物理学とか、とにかく電気・電子工学科の科目も入れ、目一杯組んで学びました。そのことが今の私の基礎を形成していると言つても過言ではないと思つています。大学の教養課程においても、工業数学、応用物理学、応用化学、法学、地学、国語学といった科目があつて、会社に入つても我が身を助けたところもあり、感謝しております。

特に役に立ったのが金属材料研究室での研究テーマ『応力腐食割れ

健康で住み心地の良いお部屋造  
家屋を守る白蟻消毒  
株式会社 もみの木畳店

世羅郡世羅町 TEL (0847) 22-1426(代)  
FAX (0847) 22-1893

### 郷土の発展に貢献する 井上建設株式会社

一般土木・ほ場整備・舗装・水道・建築・リフォーム

取締役 井上 力

三原市久井町江木1471 TEL 0847-32-7125  
FAX 0847-32-8366

『の卒業研究をやったことが大きいに役立ち、仕事に対する論理立て等、身を手付けてくれました。昭和四十五年大阪万国博の年に現在勤務している会社の試験を受けに来ました。そして、その時、万国博の見学もしました。色んな意味でグッドタイミングでした。勤務している会社は、当時資本金三億円規模の会社でしたが、現在は東証一部上場の会社になっております。当時、チューターである担任教授から「長野にある資本金五十億の会社があるから行ってくれ、私の推薦で間違いないから」と言われ推してもらったのですが、私は京都より東に行くことを考えていなかった。次席に譲りました。名指しで推薦してくれた教授に大いに申し訳なく思っております。生きてきた時間を顧みれば、人の一生というものは、人それぞれにあつて、自分の意志にかかわらず自然の流れと言うものがあるように思います。又、人の人生は大変ミステリアスな様にも思います。いずれにせよここまで生かして戴いたので、これから先は少しでも恩返しが出来たらなあと思っております。仕事をしながらでも、お手伝いできることはしようと、五十歳を迎えた時、心に決めました。以降、関係する団体・組織にお手伝いさせて戴いております。このような気持ちから、遅まきながら、近畿同窓会にも参加させて戴いて

おります。近畿同窓会の登録会員数はおよそ四三〇名強おられます。その諸先輩には、地位ある人、実績ある人、成功されている方が沢山おられます。近畿同窓会の運営も、会長以下役員七十代の方々が頑張っておられます。しかも、無報酬で愛する母校のために、同窓会の運営に頑張っておられます。大変ご苦労様で敬服する次第です。私より若い方々が約一五〇名おられますが、同窓会の運営には参画戴いておりません。私は、四十代、五十代、六十代の方々に参加して戴きたいと思う次第です。  
(大阪府箕面市在住)

### 四二会の結成と活動

吉宮孝治

(昭42高卒)

昭和四二年三月に世羅高校を卒業した後、約三五年強の間、同期の人とは音信不通の状態が続いていたが、平成一五年一月の東京校友会総会に出席していた同期の間で、東京在住者で一度集まりたいという話になり、次の年の一月に新宿駅南口にあるホテルの中華料理店に八名が集まった。不思議なもので、高校時代は全く知らなかった他の科の人も、その言葉遣いや学生当時の話題等共通点が懐かしく、一瞬のうちに旧知のごとく打ち解けて、大変楽しい思い出となつて心の中に残つた。

その後、平成一七年の校友会総会に恩師新畑先生が出席された際には、我々の同期が六名参加し、総会後の二次会でも先生を囲んで話が弾んだ。こうして会う機会が増えるにつれて、会を作つて定期的に旅行等したらどうかとの話が持ち上がり、丁度平成二〇年には、我々の期が還暦を迎える年に当たることから、記念の旅行をしたいとの発案があつた。そこで六名(十河(瀬戸)直子さん、佐藤(高本)照子さん、小林(金久)昭子さん、寺田雅広君、脇本又村君及び筆者)が発起人となり、数回の打合せの後、首都圏在住の二三名に案内状を出したところ、七名(発起人のほか國正(門田)和道君)から出席、一六名から欠席の回答を得た。参加人数は想定より少なかったが、全員に連絡が取れたことは、今後の会の拡充に期待が持てるものと思つている。

最初の旅行は、平成二〇年六月に熱海、伊東に一泊二日の「還暦旅行」として行つた。新宿駅西口に集合し、寺田君提供・運転の車で出発。東名高速経由で昼ごろ熱海に着き、約二二〇〇年前から来福・縁起の神として信仰されている由緒ある来宮神社で祭式に則つて厄払いの祈禱をして頂き、神主さんから神社の来歴や生き方等楽しい話を拝聴し、境内に一廻りすると寿命が一年延びるといわれる大桶を数周廻つた後、MOA美術館経由で伊東に向かう。当日のホテルでは、夕食に山海の旬の幸を堪能し、カラオケに興じた後、部屋で未明まで時間を忘れて語り合い、充実したひと時を過ごすことができた。

同年一〇月には数奇屋橋に八名(新参加者数本(高山)一恵さん)が参加して再会の宴を催し、会の名前を「四二会」に決定した。

二回目の旅行会は、平成二一年六月に七名(同佐藤(横山)真理子さん)が参加して白樺湖・蓼科へ。そして三回目は、本年六月に七名で初島へ。いずれの旅行も、車中、ホテル等で楽しい話題で盛り上がり、瞬く間に時間が経過し次回が待ち遠しい感じで終えている。また、この間に懇親会を催して親睦を更に深めている。

還暦を過ぎたとはいえ、まだ現役で多忙な者も多く、全員が揃うことは難しいが、皆が協力的で、毎回和気あいあいの内に気持ち良い楽しい会となつているので、同期諸君には気軽に参加して頂くよう心からお待ちしている。



itc 警備保障事業部(広島県公安委員会第434号)  
人材派遣事業部(般34-300074)

じつとく  
**製 實徳コーポレーション**

〒722-1112 広島県世羅郡世羅町本郷39-7  
TEL (0847) 25-5271 FAX (0847) 25-5272  
(0847) 22-0500

**進物の玉浦**  
☎0847-22-1107  
FAX.0847-22-1567

〒722-1121  
世羅郡世羅町西上原612-2  
営業時間/AM8:00~PM7:00  
年中無休

愛をかたちに...  
シャディ

# 学校便り

進路状況および取り組み

進路指導部

今年の卒業生(平成22年3月卒業)の最終的な進路先は、4年生大学78名、短期大学15名、専門学校54名、就職(公務員を含む)は25名でした。このように本校の卒業生の進路先は、多岐にわたっており、進路指導体制も多様で、め細やかな指導が求められています。大学全入時代といわれている昨今の状況ですが、安易に進路を決定せず、じっくりと自分の将来を見定めて、高い志(進路目標)をもち、その実現のために一生懸命努力する生徒を育成していきたいと考えています。進路先として特に注目されることは、難関大学の筑波大学(1名)や地元広島大学(4名)に合格者を出すことができたことです。進学を希望する生徒に対しては、習熟度別授業、放課後および休業中の補習授業、世羅塾、低学年対象のサテライト授業、各教科の添削指導、小論文・面接の個別指導などの具体的な取り組みとともに、進学意識を高めるために、進路別ガイダンス、進路講演会、大学出張講義、進路通信の発行などの取り組みも行っています。就職指導については、就職ガイダンス、対策テスト、面接指導などを充実させたことと地元企業から求人をお願いしたこと

によって、100%の就職率を達成することができました。しかしながら、一昨年後半から続く不況により就職戦線は一層厳しいものとなり、就職を希望しながらも進路変更を考えざるを得なかった生徒もおります。このような状況に対応するためにも、「キャリア教育」の視点に立った進路指導を充実させて、職業観・勤労観をしっかりと持った生徒を育てていきたいと考えております。「自主的・自律的な態度を養い、将来の世羅台地の人材を育成する」という目標の下、教職員一同、頑張つていきたいと考えておりますので、同窓会の皆様も今後ますますの御支援・御協力をよろしくお願い致します。

## 広島高等学校駅伝競走大会観戦記

全国高校駅伝の県予選を兼ねた県高校駅伝は11月7日(日)に三次市のみよし運動公園陸上競技場を発着点とするコースで男子52校、女子34校が出場して開催され、本校陸上競技部の男子は2時間7分29秒で7年連続39回目、女子は2年連続4度目の優勝をして、男子は40回目、女子5回目の節目となる全国大会への出場権を得ました。

来たる12月26日の全国大会では男子は60年ぶりの連覇に期待が懸けられておりますが、まずは出場選手がベストコンディションで大いに臨むことを願っています。(レース経過)

○男子1区松井から3連続区間賞で独走態勢を築き、4区藤川主将のまさかの不振で後続に追い上げを許したが、5区以降も連続区間賞で再びリードを広げ圧勝した。

○女子1区木岡が首位と59秒差の3位スタート。2区堀が45秒差に追い上げ、3区日南住でトップに浮上した。その後もリードを広げ、2位に2分31秒差をつけてゴール。2区以降の4人が区間賞の快走であった。

# 地域だより

## 東京校友会

会長 十河 研一 (昭36年卒)

母校陸上競技部への応援賛助金は百名を超える会員から年間を通して振り込まれ、高校駅伝全国大会が行われる12月に母校へ贈っています。同時に京都への応援も継続的に参加しています。今年はアメリカ・ソントン・ドノヴァン校との交換留学等を支援するNPO法人「世羅国際交流教育ネットワーク」へ多数の会員が参加し、その活動を支援しています。母校の文武両道の力強い教育が次世代の後輩を育てることを期待しています。

さて、東京校友会は年1回の総会、年2回の会報発行と親睦会活動を行っています。1月松の内には「小石川七福神めぐり」を行い、由緒ある神社で一年の繁栄と健康を祈願しました。3月終りは花冷えの中を「神田川河畔をめぐる観桜会」を行い、満開の桜を楽しみました。

会報「とうきょう世羅」は4月と10月に発行し、母校の動向や会員の消息を掲載し全会員に配布しました。

今年の総会は11月21日恵比寿ガーデンプレイスで、戸野校長・小



LOTAS CLUB ESSO BRIDGESTONE  
カーケア&タイヤショップ

# 片山自動車工業

有限会社  
広島県三原市久井町江木76-1  
TEL (0847) 32-6605  
E-Mail: ktyam@lotas-katayama.co.jp

OA機器・事務用品・学用品  
オフィス家具・教材教具・教科書 卸・小売

# 森田尚文館

森田 努 (S29年卒)  
世羅郡世羅町 TEL 22-0136(代)  
FAX 22-3051

島同窓会長をはじめ多くの来賓を迎えて行われます。ゲスト講演者としてかつて母校で教鞭をとられた現在は書道家として活躍されている東洋大学文学部教授三宅相舟先生をお迎えします。日常縁遠くなつた「書の話」を楽しみに、還暦世代の教え子たちとの再会を期待しております。

### 近畿同窓会

会長 松尾 千九三  
(昭25年高卒)

平成二十二年度の世羅高等学校近畿同窓会総会は、六月十三日(日)大阪市北区の「大東洋」で、小島敏文世羅高校同窓会会長・戸野史世羅高校校長・時永益徳世羅町教育長をお迎えして開催(三十二名参加)しました。

同窓会の存在意義等についての想いや、同窓会への協力要請に言及した後、役員人事等総会議事の審議を行ない、承認されました。

世羅高近畿同窓会の前年度(平成二十一年度)の主な活動は、次のとおりです。関西同窓協議会の総会や幹事会等に参加(四月・五月・九月・十一月、二十二年一月・三月)、世羅高近畿同窓会運営のための役員会等主催(四月・十一月(二回)平成二十二年三月)、広島県人会総会ふる里ふれあい祭りに参加(五月)、世羅高近畿同窓会総会開催(六月)、全国高校野球選手権大会出場の如水館

高校の応援(八月)、母校同窓会総会に参加(八月)、母校より戸野校長・小島同窓会会長が来阪(十二月)、全国高校駅伝出場の母校の応援に参加(十二月)、全国高校駅伝競走大会で男子優勝の祝勝会に参加(平成二十二年二月)、廣政常任幹事の告別式に参加(二月)、選抜高校野球選手権大会出場の広陵高校の応援(三月)。以上です。

### 呉支部

支部長 大原 重徳  
(昭33高卒)

海軍の街の呉に「やまとミュージアム」ができて五周年が来る。お蔭様で評判はよく、多くのお客様が来呉される。

ただ残念なことに、呉には他にめばしい観光スポットがない。友人が訪ねて来て、「あそこは既に行つた」と言われると困つてしまうことになる。

そんな呉で、今年ちよつと面白い観光スポットが出来た。名称は『呉湾観光遊覧船』という。呉中央棧橋をスタートし、音戸の瀬戸まで行き、引き返して第一潜水隊基地を見て、戦艦大和建造ドック跡を経由し中央棧橋に帰って来る。料金は千五百円、所要時間七十分である。さっそく乗船してみた。まず船は音戸の瀬戸に向う。狭い海峡に入り、両側の岸が迫つて

来る。小さな渡船が走っている。

「音戸の舟歌」に歌われた潮の流れは、なるほど速い。平清盛の日招伝説など聞き乍ら走る、走る。潜水艦基地で、甲板に出る。すぐ目の前、手の届きそうな所に潜水艦が接岸されている。護衛艦も幾隻か居りその迫力に圧倒される。

大和建造ドック跡では、往時の歴史に思いを馳せた。現在も新造船や修理のために、ドックにどでかい船の姿は見られる。海上から見る呉の街も、また面白い。

### 本部だより

#### 〇総会報告

二十二年度総会を八月十五日(日)世羅町本郷「玉乃家」で開催しました。小島敏文会長・戸野法史校長の挨拶で開会し、花村八郎東京校友会副会長、松尾千九三近畿同窓会会長より祝辞をいただきました。

#### 〇講演

中国電力陸上部監督 坂口 泰氏 (S55卒)

#### 〇総会議事

- ①平成二十一年度事業・決算報告 および監査報告(承認)
- ②平成二十二年度事業 および予算案(承認)
- ③同窓会の活性化について

ア、規約の見直し  
イ、役員・常任理事・幹事の  
見直し

この二件については今後一年か

けて同窓会改革検討委員会にて検討する。

#### 〇報告事項

- ①同窓会報12号の発行 (編集委員の委託、広告依頼等)
- 〇懇親会

記念撮影の後、岡谷幹事長の挨拶と小林新高様の乾杯により懇親会が始まり、参加者全員が自己紹介をし、陸上競技部の現状報告、総会に講演いただいた坂口様との交流や東京校友会・近畿同窓会の日頃の取り組みなどの紹介いただきました。

また、同窓会に出席される人数が大変少なく、開催時期や会場についても考えてもらえないかとの意見もありました。このことも今後改革検討委員会などで協議していただけたらと思います。その他、母校の思い出や故郷への思いなどを話され予定時刻を過ぎても続いた和やかな懇親会でした。



### 編集後記

「朝(あした) 仰げば新山の松の緑に啓示(さとし) あり。夕(ゆうべ)のぞめば大田川(おほの) (旧制世羅中学校歌)」とあるように、新山は大田平野のシンボルであり、また慈(いつく)しみの源として、地域の人々や同窓生から親しまれて来ました。古来、松は「千代の松」と呼ばれ、四季折々にも緑の色を変えぬことから、長寿・不変・不節の象徴として尊ばれて来ました。その松に包まれた新山の威容に私たちは共感を覚えて来たのだと思います。しかし今や、その新山の松も四方に連なる山々と同様に「マツクイムシ」の被害で立ち枯れてしまい、それに代わつて山肌をおおうようになつた広葉樹が、この季節、黄や赤茶色の見事な紅葉を見せています。不変の緑から、別の意味の美しさを見せるようになった新山は、環境問題について私たちに無言の中に論(さと)しているように思えます。その新山の麓から、皆様のご多幸を祈りながら第12号をお送りします。

#### 《訃報》

●桑島純一氏 (三次市甲奴町宇賀)

平成21年2月16日逝去。享年71歳。理科教諭として本校に昭和61年4月より平成14年3月まで勤務。地学の授業を初めクラブ活動など熱意をもって生徒を指導されました。

●新谷辰夫氏 (世羅町本郷)

平成22年5月2日逝去。享年85歳。保健体育教諭として昭和24年6月から昭和53年3月まで本校に勤務され、生徒に優しく接し、授業とともに柔道部・陸上部の育成にも力を注がれ、母校を支えられました。

#### 《編集委員》

- 伊藤陽康 (昭28卒) 石原正俊 (昭28卒)
- 松島延江 (昭28卒) 阿部玲子 (昭29卒)
- 大田良晴 (昭37卒) 林 光輝 (平2卒)
- 西原 求 (事務局)